

令和 8 年春の見学会報告

令和 8 年 6 月 25 日(木)、雨模様でしたが京成柴又駅、寅さん像付近に集合しました。総勢 13 名。「葛飾郷土と天文の博物館」の方と待ち合わせ出発です。帝釈天参道には入らず、以前に比べ大分きれいになった駅前広場からすぐに左折。柴又八幡宮に向かいました。八幡宮では博物館の学芸員の方が待っていて、1991 年から 2002 年までの古墳発掘の経過や、様子を説明していただきました。人物埴輪、円筒埴輪の出土状況から、前方後円墳と考えられましたが、検討し直す必要があるのではないかと話がありました。何にしても東京低地の微高地に人が住み、古墳が作られたということが分かります。養老 5 年(721 年)の「下総国葛飾郡大島郷島俣里」に当たるようです。帽子をかぶった寅さん埴輪が出土して、博物館に展示してあるとのこと。対面が楽しみになりました。

八幡宮からは、5 分ほど歩いて、京成バス亀有行のバス停につきました。バスに乗り込み、中川、環状七号線を越えた所のバス停で下車。葛西城址公園に向かいました。博物館の方は、環状七号線の反対側の公園で待っていました。環七通りの両側が葛飾区の公園になっていて、葛西城跡の真ん中を環七が通っています。環七建設に伴って発掘調査が行われたとのこと。

葛西城は上杉氏、足利氏、北条氏と時代によって支配が変わっています。中川沿いの微高地に建てられた鎌倉後期から安土桃山時代の平城です。江戸時代になって、将軍の鷹狩りに使う、青戸御殿となったようです。

発掘調査が終わり、環七建設のため埋め戻され、城の痕跡は残ってないとのこと。それでも、土塁かな、城の石垣？と思わせる公園になっていて、昔が偲ばれます。環七の両側には公園を作り、平成 10 年(1998)に東京都指定史跡に指定されています。

雨が強くなった中、葛飾テクノプラザに着き、レストランで昼食休憩となりました。葛飾テクノプラザは葛飾区の産業振興を目的に会議室、ホールなどの設備が整っています。

食事休憩後、「葛飾郷土と天文の博物館」に向かいました。水戸街道を越え、歩いて 30 分ほどで着きました。最近リニューアルしたとかで、2 階の展示室は大変きれいになっていました。葛飾の縄文時代から現代まで、わかりやすく見事に展示されています。古墳から発掘された、寅さん埴輪、人型埴輪にも対面。農村地帯から、町工場の街になり、今に至る葛飾区変遷がよく分かります。昭和の家の中の様子、町工場の展示には懐かしさを感じました。

見学を終え、解散となりました。葛飾郷土と天文の博物館の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

なお、このあと、「立石様」を見学しに行ったグループもありました。東京低地の変遷は墨田にも大いに関係していることです。今回の見学で改めて感じることができました。

